



第45回

若布献上

賢所、天皇・皇后両陛下、
皇太子・同妃両殿下、三笠宮殿下へ献上

宗 像

4月祭事暦

- 1日 春季大祭(1日目)**
午前11時～一日祭
(氏子奉幣、主基地方風俗舞、讀安舞)
午前9時～
奉納 剣道大会
- 2日 春季大祭(2日目)**
午前11時～二日祭
(献上若布採取者表彰)
午前11時40分～
交通安全講話祭
高宮祭
第二宮・第三宮祭
宗像護国神社 春祭
午後2時～
献茶祭(南坊流小方社中)
- 15日 月次祭**
午前10時～
高宮祭
第二宮・第三宮祭
引き続き宗像護国神社
午前11時～
総社祭 豊栄舞奉奏
- 29日 昭和祭**
午前11時～

三月十五日(木)神島宮司、随行神職・漁業関係者らが宮中へ参内し、賢所、天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃両殿下、三笠宮殿下へ早春採取の玄界灘産若布を献上申し上げた。

この皇室への若布献上は昭和三十八年、宗像七浦と称される宗像郡内七漁協(大島・鐘崎・神湊・勝浦・地ノ島・津屋崎・福岡)の組合員で結成された「宗像大社海洋神事奉賛会」(現会長 村田繁美宗像漁協地ノ島地区代表理事)設立の際に宗像大神の御神徳が、国家・皇室の守護にあるという由緒をもつて、皇室の御安泰と聖寿の長久万歳を祈念して始められた。今年で四十五回目を迎えたこの「若布献上」は秋の「みあれ祭」海上神事



国東半島は、両子山を軸に尾根が四方八方に伸び、その谷ごとに郷がある。古代より、この森厳な山谷の自然現象に人々は神仏を感じ観念してきた。そして、宇佐神宮とむすびつき神仏習合の文化が花開いたところである。その郷の一つに田染郷がある。ここは宇佐神宮により開墾された莊園が残っており、天引社という水神様を中心に棚田が当時の姿で広がっている。この空間が、中世の景観をそのまま残しているとして、田園空間博物館「田染荘」の名称で保存事業が行われている。この地域は、高度成長・バブル経済の時代と、その時流に乗り遅れたが、町は結局、中途半端な開発を免れたことになり、現在の「昭和の町」、また田園空間博物館「田染荘」へと繋がる。岡倉天心は、日本はインド文明・中国文明と繋がるアジア文明の博物館であると語っている。「この民族は古いものを失うことなく、新しいものを迎へ入れる。『不二一元思想』の精神により宗教儀礼や哲学、音楽、衣装、発音、儀式等見事な成果を生み出して保存されている」と。アジア文明の博物館として意識せず日常の中に保存されている日本の伝統・文化・自然を、意識して伝えてゆく時かもしれない。(H・W)



神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番
本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)~4番
(075)343-3341番



木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組
〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567



幸」と並ぶ同会の一大行事である。献上若布の謹製は、厳寒の玄界灘で同会会員の手で二月二十日より採取。「椿油」を塗った板に若布を張り付け、天日で干す「板干し」という古来の加工法で調整され一旦当社へ奉納。それを神職・巫女が形を整え規定の量を袋に収め、その中から厳選したものを六キ口が献上品として奉製された。

今年も暖冬という事もあり、海水温度の高さが心配されたが、時化も少なく生育が早く採取も順調に進み、質は例年同様色合いも緑鮮やかであり、奉製作業中も磯の香りがする良質のものであった。献上前日の十四日午前十一時、宗像大神の御神前に杉柵目箱に納め白布に包まれた「献上若布」を奉安し、「若布献上奉告祭」を斎行、本年も御献上が無事執り行われるよう祈念した。祭典終了後、神島宮司以下一行は「献上若布」を捧持して福岡空港へと出発した。

例年、この若布献上に際しては、全日本空輸(株)に種々御高配賜っており、本年も福岡空港では、同社特別待合室にて出発時刻まで待機、十三時十五分の二五四便に搭乗し、一行は空路東京へと向かった。春麗らかな天候に恵まれた献上当日、神島宮司・随行神職・権田正喜氏(鐘崎漁協組合長)・豊福正人氏(宗像漁協大島支所)の四名は坂下門より宮中へ参内。掌典長井関英男氏に神島宮司が若布献上の旨を奏申の上、

人事異動(神職)

四月一日付で人事異動を下記の通り行いました。

權 宜	堤 宏	文化財管理事務局長
"	葦津 幹之	庶務部長
"	"	海洋分局長
"	"	宗像大社菊花会事務局長(兼)
"	"	主基地方風俗舞保存会事務局長(兼)
"	"	氏子青年会事務局長(兼)
"	渡邊 秀丸	經理部長
"	"	宮司兼務社管理主任(兼)
權 權 宜	杉山 安彦	祭儀部長
"	"	宗像護国神社管理主任(兼)
"	佐々木大治	祭儀部 儀式課長
"	"	氏子会幹事長(兼)
"	中原 裕生	海洋分局 主任(中津宮)
"	"	宗像大社菊花会事務局員(兼)
"	坂本 敬	經理部 用度課主任
"	"	宗像大社菊花会事務局員(兼)
"	御床 直之	祭儀部 賽務課主任
"	"	氏子会幹事(兼)
"	"	氏子青年会事務局(兼)
"	大塚 宗延	庶務部 広報課主任
"	"	宗像大社歌会担当(兼)
"	長友 貞治	庶務部 庶務課主任
"	"	經理部 會計課主任(兼)
"	壹岐 貴寿	祭儀部 儀式課員
"	"	氏子会幹事
"	飯田 明宏	祭儀部 儀式課員
"	"	氏子会幹事(兼)
"	"	宗像大社菊花会事務局員(兼)
"	"	主基地方風俗舞事務局員(兼)
"	松林 拓	庶務部 庶務課員
"	"	宮司秘書(兼)
出 仕	吉野 理	祭儀部 儀式課員
"	"	氏子会幹事
"	"	主基地方風俗舞保存会事務局員

上、謹みて賢所へ献上申し上げた。続いて宮内庁侍従職大村卓司氏へ挨拶に伺い、天皇・皇后両陛下へ神島宮司以下謹んで献上申し上げた。神島宮司が記帳の後、掌典職梅澤宏和氏にご案内頂き宮中三殿仮殿を参拝させて頂き宮中での献上の儀を滞り無く終えた。宮中を辞した一行は東宮へ向かい、東宮侍従職坂根工博氏を通じて皇太子・同妃両殿下へ献上、更に三笠宮家宮務

官を通じて三笠宮家へも献上申し上げ、ここに平成十九年の「若布献上の儀」は滞り無く終了した。本年の若布献上者は左記の通り。

尚、本年の若布献上に際し、格別のご支援を賜りました出光興産(株)、全日本空輸(株)をはじめ、多数の方々には略儀ながら紙面をもちまして篤く御礼申し上げます。

宗像大社	宮 司	神島 定
權 權 宜	長 友	貞 治
鐘崎漁業協同組合	組 長	権田 正喜
宗像漁業協同組合	大島支所	豊福 正人



氏貞公墓前祭

〈 本年は仏式にて齋行 〉

宗像大宮司氏貞公(第八十代大宮司)の墓前祭が命日の三月四日に執り行われた。

例年、この日は寒さ厳しく、時には小雪が舞う中での祭典という印象が強いが、今年は暖冬でまったく寒さを感じな

い日和となる。墓碑のある上八地区周辺の田園には菜の花や、木蓮がみごとに咲き誇っていた。

この墓前祭は、氏貞公ご逝去四〇〇年忌にあたる昭和六十一年に、宗像大社と菩提寺

である承福寺との墓石保存協議のおり、神式と仏式で隔年毎に墓前祭を奉仕することが定められ今日に至っている。

午前十一時、暖かい木漏れ日と、鶯のさえずりの中、墓前祭は仏式により承福寺塾村住職、隣船寺田代住職外一名の僧侶の奉仕で読経があげられ、宗像大社より渡邊禰宜、地

元上八今門地区住民二十余名、代々宗像家に仕えこの地に氏貞公を埋葬した占部家の人々が焼香し氏貞公を偲んだ。

氏貞公は、戦国乱世にあって、弘治三年に焼失した本殿を天正六年に再建、また祭祀の厳正化等の改革を行い宗像神社復興に尽力し御神威の護持に努められた。

その氏貞公は、天正十四年春、風邪が原因で葛ヶ岳城で逝去、四十二歳であった。その

死は、大友勢等に侵略の隙を与えない為、三年間隠密にせよとの遺言により世間には病中とし、亡骸は竹皮籠に納めて深夜、占部右工門が背負い上八村「乙尾の丘上・老松の下」に埋葬された。

墓前祭終了後、地元今門公民館で直会が行われ、戦国乱世の中、宗像神社・神郡宗像の復興に尽力された御遺徳を偲び、酒を酌み交わしながら和やかな一時をすごした。



宗像氏貞公の肖像画

島根県立古代出雲歴史博物館開館

〔国宝・沖ノ島神宝を392点出陳〕

三月十日「神々の国」出雲の地に島根県立古代出雲歴史博物館出雲市大社町杵築東が開館した。その前日、九日の開館記念式典は、澄田島根県知事、出雲大社千家宮司、地元選出国會議員をはじめ関係者

約五百人、又来賓として当大社神島宮司出席のもと盛大に開催された。同博物館は「古代出雲文化の継承」を基本コンセプトとし、全国への文化発信の一大拠点を目指している。

常設展示には、平成十二年に隣接する出雲大社の拜殿北側で発掘された直径約三メートルの「心御柱」や出雲国造家に伝わる「金輪御造営差図」に基づき復元された巨大神殿の模型を展示、又荒神谷遺跡から出土した国宝の青銅器や出雲神話・風土記の世界をシアターで紹介され、大人から子供まで親しみやすい博物館として構成されている。今回、開館記念特別展として神話の里・出雲にちなみ、「神々の至宝」祈りのところと美のかたち」(五月



開館記念式典の様子



巨大な千木と腰懸木。昭和14年～昭和26年まで出雲大社本社の屋根を飾っていた。



博物館の外観



沖ノ島神宝の展示風景。当大社の由緒にふれた人々は、まず最初に御神鏡と対面する。

二十日まで)を開催。神宮、熊野速玉大社、春日大社、祇園 八坂神社等西日本著名神社の御神宝を展示、当大社からも沖ノ島祭祀遺跡出土神宝を出陳、「古代祭祀と神宝の源流」として紹介されている。

出陳した沖ノ島神宝は、三角縁神獸鏡、勾玉などの玉類、刀剣・挂甲小札などの鉄製武器や武具、馬具、金銅製高機、金銅製五弦琴、金銅製紡織具、土器など、合計392点(ネックレス状のガラス玉を一連と数えた

場合の点数)。神への祭祀の遡源となる沖ノ島祭祀と神宝は、展示の根幹として重要な位置を占めていたようである。各神社の御神宝が一堂に集い、神々しい雰囲気漂う本特別展は、大変豪華で見ごたえがあった。

また、同博物館は、指定管理者制度を取り入れ、館の管理、運営を民間に委託している点で、全国的にも珍しい館である。華々しくスタートをきった同博物館が今後いかに進化していくのか、その動向が見逃せない。



上品に並ぶ沖ノ島神宝。神々しさを放っている。



展示作業の様子



平安時代の出雲大社模型

平成19年・日本海々戦記念 沖津宮現地大祭の御案内

今年も沖ノ島西方洋上で明治38年に行われた日本海海戦をトして、年に一度沖ノ島に渡島参拝し、「沖津宮現地大祭」が斎行されます。

下記、要項で参加者を募集致しますので、参拝ご希望の方はお申し込み下さい。

沖津宮現地大祭要項

- ① 参拝者は沖津宮奉賛会費として1名につき、**20,000円**お納め頂きます。
- ② 参拝御希望の方は、当大社より『参拝申し込み書』をお取り寄せ頂き、**4月30日迄(必着)**に社務所まで御返送下さい。
- ③ 沖ノ島渡島前日の**5月26日(土) 18:00**迄に中津宮(筑前大島)に到着し、受付を済ませ、渡島安全祈願祭に御参列していただきます。(祭典後、各班ごとに説明会を行います)
- ④ **5月27日(日) 7:00前後**に大島港を出港。
・沖ノ島到着後、直ちに海水で裸をして頂きます。
・祭典は**10:00**の予定です。
・**13:00**沖ノ島を出港の予定で、大島着島は**15:00頃**の予定です。
大島・神湊間のフェリー最終便は**18:00**です。
- ⑤ 海上模様等で沖ノ島渡島が中止になった場合は、大島の沖津宮遥拝所で祭典を斎行致します。
- ⑥ 乗船者数に制限がありますので、定員を超える場合には御遠慮願います。
- ⑦ 年令70才以上の方や、関係筋の通達により健康状態が良好でない方、長時間の乗船に耐えられない方は御遠慮願います。
- ⑧ 申し込み者には、受付後参加の諾否を葉書で御通知申し上げます。

沖津宮参拝心得

- ① 遊山・魚釣等を目的とし、釣具類を持参しての乗船は固く禁止します。
もし違反があれば乗船をお断り致します。
- ② 沖ノ島上陸の際は、古例により海水で裸をし、心身を清める事。
- ③ 御神水以外は、一木一草一石たりとも持ち帰る事を禁止します。
- ④ 厳重なる掟がある為、婦女子の参拝は固くお断り致します。
大島での宿泊につきましては、参拝要項に同封の、大島の旅館・民宿のパンフレットを御参照の上、各自で直接予約願います。
申込書・参拝心得・参拝要項等を用意しておりますので、返信用切手を同封の上、下記宛までお申し込み下さい。

申し込み先

〒811-3505 福岡県宗像市田島2331
宗像大社社務所 祭儀部『沖津宮現地大祭』係
TEL (0940) 62-1311 (代表)
FAX (/) 62-1315



中津宮(大島)での渡島安全祈願祭(前日の26日)



海中での裸



沖津宮(沖ノ島)での現地大祭(27日)



船上から見た沖ノ島



(続)

浜の寄物

213

いしいただし



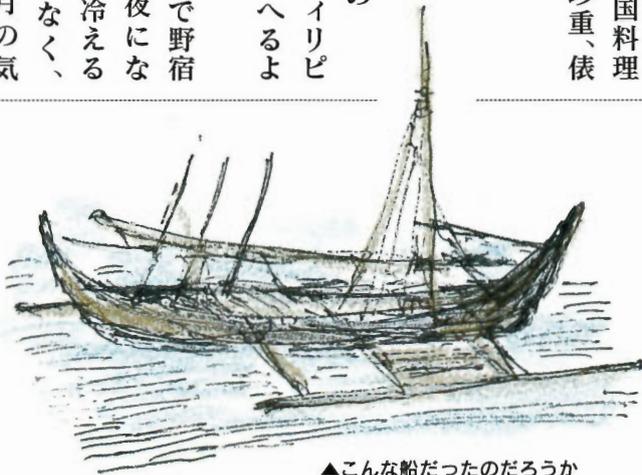
南海紀聞を少し訳してみよう。黒坊等が再びあらわれ、身につけているものを奪っていく。懐も探り、鼻紙袋(鼻紙、薬品、金銭などを入れた袋)にいたるまで、ことごとく剥ぎ取っていった。「是正月十二日夜間の事なり」

その朝、食へ物を求めて、彼等の住家に行つて、また蕃薯をもらつて食べた。住宅は四方、かこいの壁もなく、屋根は「あたふ」という草の葉をもつて葺かれていた。家の中は、大きなカマドがあつて土鍋がす

えられ、たくさんのおまこが集められ、海参(煎海鼠、ナマコの腸をとり去り、ゆでて干したもの。日本でも近世には中国に輸出された。中国料理の高級材料としても珍重、俵物)

ここは黒坊達は漁をし、また仕事場であり平常の住家ではなかった。この島の名を「マギンタロヲ(フィリピン、ミンダナオ島)と云へるよし後に聞く」

さて二日間ほど浜辺で野宿をした。深夜になつても、冷えることがなく、五・六月の氣候と異ならなかつた。みんな話合つたことは、この者達にも頭目がある



▲こんな船だったのだろうか

だるうから、彼等に頼んで頭目のいるところに連れていってもらい、帰えられるように

頼んでみることとなつた。彼等に拇指(親指)をあげ、頭目ありやという仕草をしたところ、相手は分つたとみえて西方を指した。そこでそこに連

れて行つてくれと船の帆のまねをしたら、分つたのである。しばらくすると数人が小船を漕いできた。これに乗せられると、船を漕げと棹を渡されたが、みんな疲れて動かす体力がない。断わると、黒坊は大いに怒つて、五六を蹴倒し、拳骨でなぐつた。みな合掌して、肢体不自由を訴えた。ようやく聞き分けて許した。「合掌は天竺地方の敬礼なれば、自然と通じたのであろう」乗せられた船は全て籐をもつて縛り、鉄釘を用いず、その形は船首と船尾共に尖り、船底も尖つていたので、不安定なため、両わきに竹をもつて遣り出しを付けていた(アウトリガー)である(うか)。帆は一ほちよく」と云へる物で造られ、一帆に三柱を設け、左右の風に便いす」。籐はラタンともいい、ヤシ科トウ属ツル性で木にからまつて成長をし、莖の長さは二〇

〇mに達するものもある。莖は強靱で、しなやかで、大きいものはさいて細くして使う。敷物、籐イス、ステッキ、細工物にも用いられた。現在でも家庭に籐製品は多いことと思う。



この者達にも頭目がある

頼んでみることとなつた。彼等に拇指(親指)をあげ、頭目ありやという仕草をしたところ、相手は分つたとみえて西方を指した。そこでそこに連

れて行つてくれと船の帆のまねをしたら、分つたのである。しばらくすると数人が小船を漕いできた。これに乗せられると、船を漕げと棹を渡されたが、みんな疲れて動かす体力がない。断わると、黒坊は大いに怒つて、五六を蹴倒し、拳骨でなぐつた。みな合掌して、肢体不自由を訴えた。ようやく聞き分けて許した。「合掌は天竺地方の敬礼なれば、自然と通じたのであろう」乗せられた船は全て籐をもつて縛り、鉄釘を用いず、その形は船首と船尾共に尖り、船底も尖つていたので、不安定なため、両わきに竹をもつて遣り出しを付けていた(アウトリガー)である(うか)。帆は一ほちよく」と云へる物で造られ、一帆に三柱を設け、左右の風に便いす」。籐はラタンともいい、ヤシ科トウ属ツル性で木にからまつて成長をし、莖の長さは二〇



▼東南アジアの人形

第五四八回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切

北九州市 八幡 竹内 結子

花粉症きつい苦しいあつらい保湿ペーパーめぐんで下さい

若い人らしい嘆きをそのまま伝えて四、五句。添えられたイラストを皆さんに見せられずに残念。

宗像市 ひかりが丘 清水 あやこ

暖かな気候が続く草花は季節分らず花ひらく

異常気象に戸惑う草花に「こころ寄せる優しい視線。字足らずの結句は「白が花ひらく」とする。

宗像市 日の里 大和 美由紀

冠雪の朝日輝く山眺め夫と並んで吊橋渡る

一、二句は「朝の日に冠雪かがやく」とし、山か吊橋の名があるが一層いい。

うきは市 浮羽町 向 則正

北京市の景山園にはぐれるし言葉通せず夕闇せまる

でも皆さんと合流出来て良かった。「るし」は過去形だから「はぐれたり」と現在形にする。

福津市 光陽台 香月 照子

暖冬に真白く積もりし雪景色はかなくきて明日は節分

初句は「野や山に」と柔らかく詠い出し、「雪景色」の硬い語を生かすには、二句も「白く積りて」。

北九州市 八幡西区 吉田 ウト子

芯を研ぎ神の御手に委ぬべし「八方塞」と厄年めぐり来

信念深い人だろう。初句は字余りでも「心澄ませ」がいい。

北九州市 戸畑区 田中 ハツセ

庭に咲く白梅に木瓜椿の花角笛草も春を告げをり

一斉に花ひらく庭を持つ作者が羨ましい。上句は「庭に咲く白梅に木瓜椿また」と定型に詠うこと。

福津市 中央 池浦 千鶴子

寒き日は棒雑巾をつると這わせるやうに掃除を終わる

判るわかると同感の人が多いただろう一首。ただ四句は「這わせるのみに」がいい。

福津市 若木台 野間 精一

冬の海を三日漂流の三人が救助されたりわれは声挙ぐ

結句には、冬の海の怖さを知るものの、驚きと安堵感が凝縮されている。

宗像市 光岡 白土 凌一

ため息は命を甯る飽かな我もつられて老いたる吾身

誤字を正し、歌意を通し、「ため息は命を甯る飽とぞつられて吾もし老いの身を知ることとする。

宗像市 田久 巻 桔梗

神に掌を合はせて想ふ妣のかほ兄妹のかほ妻と子のかほ

信念うすい私もお宮では同じことをする。神の持つ力であろうか、素直さが出たうたである。

福津市 星ヶ丘 佐々木 和彦

あじさいの先端の芽のひとかわがむけて団地の風なまぬるき

四句まで一点集中で詠い結句の転換は見事である。「ぬるき」の連体か「ぬるし」の終止か、一考のあるところ。

宗像市 東旭が丘 天野 玲子

ぼそぼそと豆まきおれば隣り家に幼の高き豆撒きの声

私の歌友の平川和子さんに「夫ひとり豆撒く声の「鬼は外」年経ることに「く」としがある。少子化と共に伝承の行事も減てゆくのだろうか。

福岡市 南区 井田 有久衣

音もなき小雨にぬれて初詣で春にさきがけ句白梅

まとまった歌だが、類型的なのが惜しい。初句を「朝よりの「昨夜よりの」とすれば少しは救われるか。

宗像市 大島 杉田 禮子

気に入りのアクセサリーを胸にあて鏡に微笑む孫は六歳

「孫」の所に名前を入れるのも一方法であろう。

宗像市 田野 森 公子

見渡せる玄海灘は静もりて春の陽を浴び銀に煌く

「流石に年季の入った一首である。上句を「鐘崎の岬より見る玄海灘は」の法もある。

宗像市 池田 森 龍子

橙のひと色赤く床の間の空気締めまりて正月迎ふ

いい歌。ただ「空気締りて」を生かすには「橙の赤きひと色」はどうだろうか、考えて下さい。

詠者選 庭木々に青き閃光浴びせしを鳴り納めとし春雷去りぬ

刺身には何がいかと聞きてこし娘にイサキが句と答ふる



第五二二回 俳句作品集

宗像市 光岡 白土 凌一

春近しうぐいす飛びて心洗う

宗像市 日の里 花田いつ枝

錠剤を掌に遊ばせる雨水かな

宗像市 東郷 田中 憲象

おもむるに弓引く神事鬼やらい

編集後記 新たな年に要する正月は、我々にとって一年で最も忙しい時期の

為、一年を振り返る暇はありませんが、この年度末は一年という時間を振り返り、時の早さを痛感すると共に深く反省もする季節です。また春は他の事業所と同様に、別れと出会いがあります。永年共に神明奉仕した職員との別れは、何とも言えない寂しさがありますが、神縁により新たな職員も入ってきます。今年社内でも部署を異動する職員が多数あり、今春は心機一転のスタートです。昨年、一昨年のこの欄をみても、毎年同じようなことを書いていますが、「桜」という花が全国各地で踏み出される新たな一歩に花を添え、忘れられない瞬間を演出してくれることでしょう。▼四季がある日本の風土が生んだ国柄からでしょうか、それとも年をとってきたからでしょうか、この桜を愛する感覚が少しづつ変化してきたように思えますし、つづく日本人に生まれた喜びを感じます。▼毎年当大社春季大祭(四月一日)時には、心字池太鼓橋近くのソメイヨシノが丁度満開となります。たった数本の桜ですが、この桜が当大社の職員にとっても、新たな始まりを告げる重要なものとなっています。(MO)

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 鞆津幹之
編集人 大塚宗延
制作 ゼネラルアサヒ
印刷 ゼネラルアサヒ

宗像大社社務所 発行所

定価1年送料共1,000円